

比喩表現を学ぶ レトリック

文章表現にはいろんな「色」がある。単純に「雨が降る」だけでは、事実しか伝わらないが、表現者はそれだけでは満足しない。雨が降ったことを自分がどのように見ているかを現すために、「心寒い雨が降っている」と表現する。また、どんな雨が降っているのかを伝えるために、「暴風雨がガラスを壊しそうだ。」などと表現する。このように、表現する時にいろんな「レトリック（修辞法）」を使う。

今回はレトリックの中で、よく使われていると言つてもいい「比喩表現」を学ぼう。

II. 1種類

比喩表現には次のような種類がある。ほぼ(ア)～(ク)の8種類に分かれる。

- (ア)直喻（ちょくよ）・明喻（めいゆ）
- (乙)暗喻（あんゆ）・隱喻（いんゆ）・メタファー
- (丙)擬人法・活喻（かつゆ）
- (丁)声喻（せいゆ）・擬態法（ぎたいほう）
- (未)換喻（かんゆ）・提喻（ていゆ）・ミニトミー
- (未)諷喻（ふうゆ）・寓喻（ぐうゆ）・アレゴリー
- (ナ)共感覚的比喩（きょうかんかくてきひゆ）
- (カ)引喻（いんゆ）（(ア)の「隱喻」とは違う）



II. 2説明

(ア)直喻 「～のようだ」「～みたいだ」といった言葉でつないで、たどりていているもの。

【例】雪のような肌 光陰矢のことし

(イ)暗喻 「～のように」「～みたいに」を使わずに直接それだと云つてたとえる方法
【例】立てば芍薬座れば牡丹歩く姿は白百合の花
あなたの前途には暗雲がたれ込めている

(ウ)擬人法 人でないものの様子を人の言動のように描く用法。

【例】「空が泣きそうだ」

『人でないもの』が『人がすること・人の状態』する(になる・だ)

(エ)換喻 状態や様子をそれにふさわしい音で表す。

【例】「ぴかぴか」「きらきら」

(オ)諷喻 そのものやその状態を表すのに、最もよく出でている特徴で代弁する方法。

【例】千円札を「漱石さん」と言つたりする。
夏目漱石「坊っちゃん」に登場する「赤シャツ」

(カ)共感覚的比喩 書き手がほんとうに「～」(ア)は表現せずに、たとえたもの(ア)だけを表現することによって、裏にある真意を感じ取らせる方法。

【例】ブタに真珠 飛んで火に入る夏の虫

(キ)引喻 ある感覚を表す語で別の感覚を表すこと。
【例】暖かい色（触覚の表現が視覚に用いられた例）

(ク)引喻 有名な詩歌・文章・ことわざ・故事などを自分の文章の一節に引用して文飾としたり、表現内容に含みを持たせたりする修辞法。